

重度の生徒が意欲的に取り組める作業学習の工夫

—工芸班の活動を通して—

特別支援教育班

高橋 美紀(特別支援学校教諭)

1. 主題設定の理由

知的に重度の生徒にとっての作業学習の課題

- ・与えられた活動に、指示を受けて取り組むだけになってしまいがち。
- ・単純作業的な工程を担当することが多い

↓

働く意欲や喜びを味わいながら取り組めていない

「やった、できた」という達成感 } をもって、
「もっとやってみよう」という意欲 }
取り組んでほしい

意欲的に取り組める作業学習の工夫が必要

2. 実践の概要 (中学部工芸班 紙すき作業によるハガキ・しおり等の製作)

【対象生徒の実態】

- ・単純作業であれば、やり方を理解して一人で取り組み、「できました」と報告できる。
- ・依頼心や甘えが強く、指示されないと自分から行えなかったり、教師と一緒に活動したがる。
- ・“製品がたくさんできた”という意識は薄いですが、ほめられるとうれしそうな表情を見せる。

【対象生徒の目標】

手順表の写真で次に行う活動を確認し、各活動に自分から取り組める。

【見直しのポイント】

- ①できるだけ一人で作業に取り組める状況作り
- ②見通しをもちやすい場の設定
- ③意欲的に作業に取り組めるような働きかけ方

【作業工程の工夫】

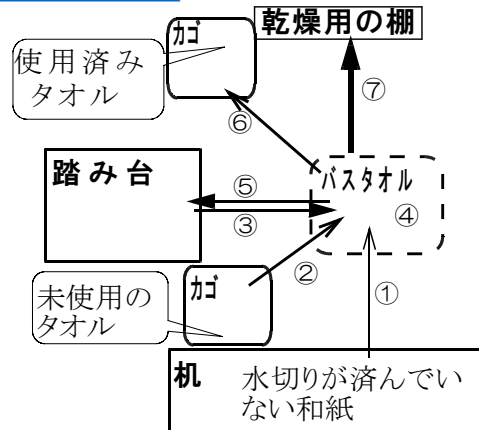
作業の順番に写真を貼った手順カードを提示する

- ①バスタオルの上に和紙を置く
- ②タオルを和紙の上に置く
- ③踏み台を載せる
- ④足踏みをする
- ⑤踏み台をどかす
- ⑥タオルをカゴに入れる
- ⑦和紙を棚に置く

キッチンタイマーで終わりが自分で分かるようにする

水切りを1回行うごとに、好きなキャラクターのマグネットを1つ貼る

《場の設定》



【変容】

- ・次にする活動が何かを自分で判断できるようになり、「次は？」の言葉掛けだけで、一人でできるようになった。それまで教師の支援がないと難しかったタオルを和紙の上に置く活動なども、一人で取り組めるようになった。
- ・水切りを1回行うごとにマグネットが1個ずつ増えていくことが分かり、それを楽しみにしながら取り組めるようになった。時間内に水切りを行える回数も増えてきた。

3. 成果と課題

- 重度の生徒であっても、もてる力を生かし、場の設定や手順カードなど、一目で活動の流れが分かる工夫をすることで、複数の活動で構成されている作業工程に、見通しをもって取り組めることが分かった。
- 出来たら好きなキャラクターのマグネットを貼ることにより、自分の作業の成果が視覚的に分かるようにしたことで、数が増えていく喜びから「もっとたくさん貼りたい」という思いが生じ、作業への意欲につながった。
- ▲次に何をすることが自分で分かっているにもかかわらず、教師の何らかの合図がないと自分から行動に移れない、という傾向を改善することは難しかった。活動の見通しや区切りを長くもてるような取組の工夫を、作業学習だけでなく、学校生活及び家庭生活全般で実践していく必要がある。